

富士通株式会社

# 第120期 中間報告書

自 2019年4月1日 至 2019年9月30日

## 株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第120期中間期(自2019年4月1日 至 2019年9月30日)の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。



代表取締役社長

崎田 隆仁

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

私は、本年6月の社長就任以降、IT企業からDX<sup>\*1</sup>企業への変革を掲げ、経営を行ってまいりました。テクノロジー企業である当社の使命は、一人でも多くの人々に、テクノロジーを通じて「しあわせ(Wellbeing)」をもたらすことと認識しております。テクノロジーによって新しい価値を創造し、社会にあふれる様々な問題を解決に導くために、富士通自身のDX企業への改革も必要であると考えております。私自らが、CDXO(Chief Digital Transformation Officer:最高DX責任者)として、富士通の変革を推進してまいります。

このような考えのもと、本年9月に開催しました経営方針説明会で、経営目標につきまして、本業であるテクノロジーソリューションにおいて、収益力向上およびシェアの拡大を図り、2022年度に売上収益3兆5千億円、営業利益率については、10%と設定しました。この経営目標を実現するための具体的な方策は、p3「IT企業からDX企業へ～富士通が目指すDXビジネス～」をご参照ください。

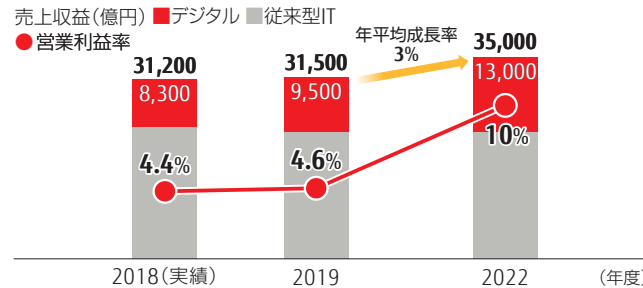
当中間期の売上収益につきましては、国内サービスおよびパソコンで大幅に増収となりましたが、デバイス事業の再編や為替による影響で、前年同期から減収となりました。

\*1 DX:デジタルトランスフォーメーション。デジタル技術とデータを駆使して革新的なサービスやビジネスプロセスの変革をもたらすもの。

\*2 当社は、2018年10月1日付で当社普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、2018年の中間配当金額7円を株式併合後の配当金額70円に換算して算出しております。

### 2019年度 計画/2022年度 目標

デジタル領域での成長を図るとともに、テクノロジーソリューションで、営業利益率10%\*を目指す



\* テクノロジーソリューションにその他/消去又は全社を加味した値として(2019年9月26日 経営方針説明会で公表した計画および目標)

### 2019年度業績見通し

(単位: 億円)

	2018年度実績	2019年度予想
売上収益	39,524	38,000
営業利益	1,302	1,600
当期利益	1,045	1,250
フリー・キャッシュ・フロー	1,035	1,000

\* 本報告書においては、親会社の所有者に帰属する当期利益を「当期利益」として表示しております。